

労働災害を防ぐためにできること

あらゆる安全対策の目的は、社員・従業員に、日々安全に元気に快適に働いて貰うことです。これが、「労働安全衛生法」という法律が作られた目的です。
それにより、働く人のモチベーション向上、効率性の向上、利益確保といったメリットを得ることが出来ます。安全は、企業にとって経営の基軸となる重要なものです。しかし残念ながら、林業の労働災害発生率は全産業で最も高い職業であり、悩みの種となっています。新年度を迎える前に、安全管理の見直しをしましょう！

☆「事業者」「労働者」の安全責任者
安全な環境の整備や、ルール作りや決め事は、事業者が中心となって整備します。(個人事業主の場合は経営者本人を意味します。)
働く人全員が、きちんとルールを守ることで、安全な職場作りが実現します。

☆現場に入る前の安全管理
機械の点検・重機の点検・道具の点検・装備の点検・労働者の健康、体調確認を毎日行うことで、危険予知活動が出来ます。

☆現場技術力の源である組織ルール
林業の現場において、安全のため一定の距離を保って仕事をしているので、各々が効率よく安全に作業しているのかを、看視し判断することは不可能です。組織のルールを作り、個人の技術力を高め、見える化にして全員が把握することが大事になっていきます。

☆安全パトロール
現場に入る前に、事前に現場の状況を把握し、準備を整えることが大事になっていきます。あらかじめ、現場を知っておくことで、危険を回避できます。

☆現場でのコミュニケーション作り
適度の息抜きも必要！心の余裕も大事です。

☆安全管理の打合せ
毎月労働者の意見を聞き、管理側への設備や装備の要望、ヒヤリハット、安全パトロールで判明した改善点などの情報を共有することが重要になってきます。

全国山火事予防運動

山火事の発生状況

消防庁の資料からの年平均(2015年-19年)

平均発生件数	1234件
焼失面積	661ヘクタール(東京ドームの建築面積約140個分)
発生の多い月	3月がもっとも多く236件、次いで4月(224件)、5月(207件) この3か月で年間の半数以上(約54%)
出火原因	たき火がもっとも多く373件(30.2%)、次いで火入れ(216件) 放火・放火の疑い(104件)



依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

心に響く一言

今が未来を作るのであり、
過去が未来を作ることではない

山でのマナー

- たき火をしない
- 喫煙者は携帯灰皿を持参
- 森林愛護を持つ

森林は、雨水を蓄える「緑のダム」と呼ばれ、土砂崩れを防いだり、二酸化炭素を吸収し地球温暖化を防いだり、いろんな働きで、人々の生活を守っています。さらに森林は、動物達のすみかでもあり、彼らの為にも、大切に守り育てていかなければなりません。ところが一旦山火事が発生し、森林がなくなると、木の生えていない山の土は少しの雨でも崩れて危険な状態になります。雨水を蓄える力もなくなり、私達生活に大きな影響を及ぼすこととなります。森林の様々な機能を回復させるためには、何十年といった長い年月と、多くの経費が必要になります。大切な森林を守る心掛けを持ち、マナーを守りましょう。